



わたしたちの食卓は

地球環境に

つながっている

日時 2025

2/1 (土)

第1部 13:00~15:00
第2部 15:15~17:15

会場 神戸市教育会館 6F

(神戸市中央区 中山手通り 4丁目 10-5)

入場無料

(定員180名)

プログラム

第1部 13:00~15:00

講演1 「食卓から見る地球環境」

京都大学名誉教授 湯本 貴和 先生

講演2 「瀬戸内海漁業から日本の食を考える」

元水産大学校理事長 鷺尾 圭司 先生

第2部 15:15~17:15

「生産地と消費地の壁を超えて」

話題提供：(株)山形水産 / 淡路じゃのひれアウトドアリゾート

代表取締役 山形 収司 さん

(株)しまぞろえ 代表取締役 松岡 優司 さん

パネルディスカッション

ファシリテーター：神戸大学大学院教授 伊藤 真之 先生

申込方法

右のQRコードよりお申し込みください。

【お問い合わせ】

認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 (0799-42-0399)



京都大学名誉教授
湯本 貴和 先生



元水産大学校理事長
鷺尾 圭司 先生

今日、地球温暖化や生物多様性の喪失など地球環境問題に関する話題をテレビや新聞で見ない日はありませんし、毎日の生活やビジネスも環境に配慮しなければ成り立たない時代になっています。一方で少子高齢化や格差拡大という日本の大きな社会構造の変化から、限界集落の増加で端的にあらわされる地域の閉塞感が増していることも多くの方が感じていらっしゃることでしょう。将来、世界的な食糧危機が起こることはこれまでも予測されてきましたが、ウクライナやイスラエルの戦乱で国際的に穀物価格が上昇するとともに、日本では農・漁業者の後継者不足の上に、温暖化の影響で稲がうまく育たない、漁獲量が激減しているなどの現象が顕著になり、度重なる食料品の値上げや昨年起きた「米騒動」のように危機が私たちの食卓にまで迫ってきています。

そこで「私たちの食卓は地球環境につながっている」と題して、神戸のみなさまと近隣の生産地である淡路島の生産者さんたちとで、命を育む「食」について専門家の先生方と考えるフォーラムを企画しました。

神戸のみなさん、ぜひご参加ください。お待ちしております。

湯本 貴和 ゆもと たかかず

京都大学名誉教授、日本フードスタディーズカレッジ学長、京都市環境審議会生物多様性保全検討部会長、きょうと生物多様性センター長。／京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（理学博士）。神戸大学理学部講師、京都大学生態学研究センター助教授、総合地球環境学研究所教授、京都大学霊長類研究所教授を経て、2022年まで京都大学霊長類研究所所長および日本生態学会会長。専門は生態学。熱帯雨林から里山まで分野横断型研究を主宰し、最近では食を中心に自然資本の持続的利用について研究している。



鷺尾 圭司 わしお けいじ

NPO法人里海づくり研究会議副理事長、日本伝統食品研究会会長／京都大学で水産学を専攻。明石市の林崎漁業協同組合で企画研究室室長として漁場環境調査や海苔養殖と漁船漁業の資源管理や魚食普及活動に従事。イカナゴのくぎ煮や恵方巻を仕掛ける。京都精華大学環境社会学科教授を経て、2020年まで農林水産省所管の（独）水産大学校理事長など。水産人の育成をはかると共に、水産業の持続的発展と海の環境保全に取り組んできました。新著「明石海峡魚景色—あれから35年—」アートヴィレッジ。

伊藤 真之 いとう まさゆき

神戸大学国際人間科学部 大学院人間発達環境学研究科教授。1988年東京大学大学院修了（理学博士）。NASA/ゴダード宇宙飛行センター博士研究員、文部省宇宙科学研究所助手などを経て、現職。神戸大学みらい開拓人材育成センター副センター長。神戸大学サイエンスショップ副室長。専門は宇宙物理学、科学教育。市民と科学者の対話と協働にも関心を持って取り組んでいる。

